

ラベル向け機材を大幅拡充 - 水性 IJ デジタル印刷機など投入 -

(株)ミヤコシ(千葉県習志野市津田沼、宮腰巖社長)は、今秋からラベル印刷関連の製品ラインアップを拡充。ラベル用デジタル印刷機やレーザーカッター、スリーブ方式のオフセット印刷機など、順次、誌上に投入する。発売するのはラベル用デジタル印刷機、「MJP13LX-2000」、レーザーダイカッター「MSP13A-1000」、ラベル用オフセット印刷機「MHL13A-3000」など。いずれもラベルを中心としたナローウェブに特化した機能を持っており、商印分野で蓄積した品質の高さを武器にシェア拡大を目指す。これらの製品は 11 月に千葉県八千代市の同社 POD 事業本部クリーンルームで開催される「OPEN HOUSE2012」において展示される。

MJP13LX-2000 はインクジェット(IJ)方式のラベル用デジタル印刷機。新開発の水性顔料インクを採用しており、豊かな表現力と低ランニングコストが特長。上質紙のほか、キャストコート紙にも印刷でき、水性でありながら幅広いメディアに対応する。

また、印刷速度も最大で毎分 50m と水性インクではかつてない高速性を実現し、高品質フルカラーのラベル向け生産機として、誌上の要求に応えるという。印刷解像度もラベル用印刷機では最高位の 1200dpi × 1200dpi と非常に高精細で細かな粒子のインク滴により、着滴後のにじみが少なく高度な描画力を持つ。インクは最大 8 色を搭載可能で、印刷幅は最大 318mm。

同社の宮腰亨専務は保守などのアフターサービスについて「当社はすべてのデジタル印刷機を印刷業界の商習慣に合わせた保守サービス設定にしている」と説明し、本体価格については「内覧会で発表するが、競争力のあるものになる」と他社製品をにらんだ販売展開を示唆した。

また、ラベル印刷之後加工機としてレーザーダイカッターMSP13A-1000 を発表。

同機は加工速度を毎分最大 10m にしたエントリーモデルで、ハーフカットはもちろん全抜きにも対応しており、小ロットや異形ラベルの加工に適している。MJP13LX-2000 など印刷機との連結も可能で、インラインでの加工にも対応。価格は未定だが「従来品に比べ導入しやすい価格設定を考えている」と宮腰専務。

一方、ラベル用オフセット印刷機 MHL13A-3000 は、5 色機を展示予定。スリーブ方式の採用により、ジョブチェンジのダウンタイムを短縮し、粘着紙の無駄も大幅に制御する。また、LED-UV 装置を搭載しており、フィルムなど熱に弱い製品への印刷でも力を発揮する。最大印刷幅は 330mm、印刷速度は最大で、毎分 100m。こちらはラベル業界とともに、グラビアやパッケージ業界での販売も目指す。

いずれも発表と同時に販売を開始し、顧客の要望を取り入れながら、納入していく。

これらの製品が展示される「OPEN HOUSE2012」は 11 月 27 日(火)から 3 日間、千葉県八千代市大和田新田の POD 事業本部クリーンルームで開催される。同イベントはミヤコシの最新製品を実機展示する大規模な内覧会で、前回は 2010 年に開催し、約 1000 人が来場した。

前述した製品のほか「drupa2012」に出展した水性 IJ 方式のデジタル印刷機「MJP20MX-7000」や電子写真方式の「Myakoshi Digital Press30NX-8000」、初出展の IJ 印刷機「MJP20EX-6000」など、合わせて 11 機種を実演する予定で、前回異常の来場者を見込む。

問い合わせは同社 POD 営業部(☎047-493-3854)まで。

(2012 年 10 月 01 日 ラベル新聞 掲載)